

古川なおき 第106号 レポート

自由民主党横浜市議員 古川なおきの政務調査報告

一月刊一 2011年9月12日



地域交通サポート事業

秋らしくなってきました。皆様お元気にお過ごしでしょうか。

ワールドカップで優勝し、ロンドン五輪出場を決めた「なでしこジャパン」は日本に勇気と元気を与えてくれています。先日横浜スポーツ栄誉賞授賞式で近賀選手や川澄選手たちと懇談させていただきました。選手たちは思ったより小柄で、言葉の端々からは、体格が勝っている欧米の選手に勝つために人知れず日々練習し、努力を重ねて来たことがわかりました。私もあきらめないことの大切さを学ばせていただきました。

●横浜市地域交通サポート事業の実証実験がスタート

さて、今号の特集は、「横浜市地域交通サポート事業」についてです。坂道が多い横浜では、既存バス路線がない地域などで、住民の方々が集まり、小型バスなど生活に密着した交通手段の導入に向けて取り組みを行っているケースが多く見られます。地域交通サポート事業とは、このような地域の主体的な取組がスムーズに進むように、運行にいたるまでの事業の立ち上げに対して支援を行う事業であり、通院、買い物、通勤、通学等様々な目的の方が一緒になって乗り合って移動できる公共交通サービスの実現を目指しています。

私達の住む旭区は、高齢化が進み、新たなバス路線の新設やコミュニティバスの要望が多く寄せられています。四季美台、今川地区では、地域交通サポート事業を利用して、地元町内会の皆様と事業者の方々は何度も話し合い、路線型乗り合いタクシーの実証実験を行うことになりました。二俣川駅から四季美台、今川町を通り、鶴ヶ峰駅近くの旭区社会福祉協議会までを循環します。料金は一律300円。朝8時から18時半頃まで1日18便。実証実験は4ヶ月間の予定で、採算が見込めれば本格運行することになります。旭区では交通が不便な地域が多くあるので、今回の実証実験が注目されています。是非とも成功させてほしいですね。まずは地域での合意と需要見込みがポイントとなります。そして、採算性が合えば手を挙げ、協力してくれる事業者も増えてくると思います。関係者の皆様のご努力に敬意を表するとともに、今後も地域交通サポート事業に注目したいと思います。

●「自助」「共助」「公助」

この事業は横浜市が路線運営の補助金を出すのではなく、地元住民の皆様と事業者を結び、民間事業として継続できるようアドバイスする事業です。実証実験の段階で赤字が出れば横浜市は赤字分を事業者に補填しますが、基本的には自助努力を住民の皆様と事業者に行っていたく事業です。厳しい財政状況にもかかわらず、さらに復興支援や防災対策に費用がかかる横浜市では、ただ単に補助金を出すのではなく、住民の皆様にもご協力いただきながら施策を進めて行くことが求められます。

国も地方も財政状況が厳しい中で、我が国は復興に取り組まなければなりません。まずは「自助」、自分にできる努力を最大限行う。次に「共助」、他人に対して思いやりの心を持ち、職場、学校、地域で良き仲間や理解者を作り、お互いに助け合う。それでもダメなら「公助」の精神で、国難を乗り越えなければならぬと思います。

国では新しい内閣が誕生しましたが、誰が大臣であれ、政権がどうであれ、私たち一人一人が日本を構成する国民なので、まずは私たち自身が努力しなければならないと思います。他人まかせ、他人の批判ばかりでは、日本は衰退してしまうように思います。少し話が大きくなってしまいましたが、「なでしこジャパン」のように、注目されなくても、小さなことでもバカにしないで、自分一人でも一生懸命に努力することが大切なのかもしれません。

季節の変わり目、お身体には十分お気をつけいただき、お元気にお過ごしください！

横浜市議員 古川直季

追伸：横浜市会は9月定例会がスタートしました。放射線対策として、小中学校全校へ放射線測定器を整備すること等が予算計上されています。昨年度の決算審査も含め会期は10月28日までです。

※本会議は傍聴できます。委員会の日程は横浜市会ホームページをご覧ください。古川事務所へお問い合わせ下さい。

古川なおきプロフィール

県立希望ヶ丘高校・明治大学 卒業/明治大学公共政策大学院修了
 横浜銀行勤務後、衆議院議員秘書
 平成7年4月 横浜市議員初当選(26才最年少)
 現在 平成23年 市会運営委員会 委員長 /水道・交通委員会
 自民党横浜市議員団所属/横浜市会 F Cキャプテン
 希望ヶ丘高校同窓会桜蔭会 理事
 旭区サッカー協会顧問/旭区スポーツダンス協会顧問
 旭区卓球協会顧問

みんなで健康増進！& 市政について気軽に語り合いませんか？
 政務調査活動の一環として「市民の皆様のご意見を」直接うかがう！

朝ウォーキング 政務調査 **なおきstyle**

日 時：10月30日(日)朝7～8時半
 集合場所：こども自然公園(大池公園)正面入口

★参加される方は、当日直接、集合場所にお集まりください。

「減災行動」をすすめてみましょう！

減災行動とは、災害による被害をできるだけ小さくするための取り組みです。地震が起きる前、起きたとき、起きた後に分けて備え、考えておくことが大切です。

災害用伝言ダイヤルの利用方法

固定電話でも携帯電話でも利用可能。

声を約30秒吹き込める。

伝言の登録は171-1、伝言の再生は171-2をダイヤルし、ガイダンスに従って電話番号を入力する

地震が起きる前：地震に備えてできることから今すぐに！

- ①家族で話し合しましょう。
 - ・家族との連絡方法、役割分担を確認しておく
 - ・家や地域の危険箇所、最寄りの避難場所を確認しておく
 - ・防災訓練に参加する
- ②家の耐震化や家具の転倒防止をしましょう
 - ・金具やつっぱり棒、粘着マットや粘着ベルトでの固定
 - ・収納や置き方の工夫
 - ・ガラスに飛散防止フィルムを貼る
- ③家の危険箇所をチェックしましょう
 - ・家の耐震化
(市で耐震診断や改修費用の一部補助を行っています)
 - ・玄関、廊下には物を置かず、避難口を確保する
 - ・寝ている間に倒れてこないよう家具の位置を工夫する
- ④備蓄品を準備しましょう
 - ・家族の構成や状態を考慮して準備しましょう

1

地震が起きたとき：その場にあった身の安全を！

- ①家の中にいたら
 - ・座布団など身近なもので頭を守る
 - ・丈夫な机の下などに身を隠し落下物から身を守る
 - ・履物を履いて行動する
 - ・外に飛び出さない
 - ・出口を確保する
- ②外にいたら
 - ・落下物、倒壊物から身を守る
 - ・地割れや陥没した場所には近づかない
- ③外出先では
 - ・バッグや買い物かごをヘルメット代わりにして頭を守る
 - ・劇場等では椅子の間にしゃがみ、落下物から身を守る
 - ・オフィスでは、書棚、コピー機などから離れて身を守る
- ④エレベーターの中にいたら
 - ・すべての階のボタンを押し、停止した階で外に出る
 - ・落ちていて救助を待つ
- ⑤運転中の場合
 - ・急ブレーキはかけずゆっくり停まる
 - ・車の避難は緊急車両の通行の妨げになるので行わない
 - ・車検証や貴重品は持ち出し、鍵はかけずに避難する
- ⑥乗り物の中にいた場合
 - ・急ブレーキに備え、手すりなどにつかまり姿勢を低くする
 - ・乗務員の指示に従う
- ⑦山や川にいたら
 - ・山崩れやがけ崩れ、落石に注意する
 - ・ダムやため池の決壊による山の津波に注意する
 - ・川から逃げる場合は、川と垂直の方向に逃げる
- ⑧海にいたら
 - ・揺れていなくても、津波警報を聞いた素早く非難する
 - ・より高いところへ避難する
 - ・津波は二度、三度と押し寄せる可能性があるため、警報が解除されるまで海岸に近付かない

2

地震が起きた後：「時と場所にあった正しい判断」を！

- ①地震災害で怖いのは火災です
 - ・大きな揺れの最中は無理に消火しようとせず、まず身を守る
 - ・大きな揺れがおさまったら、素早く火をとめる
 - ・万一出火したら、消火器や水バケツ等火が小さいうちに消火する
 - ・大声で隣近所に声をかけ、地域のみんなで協力して消火する
- ②正しい情報を入手する
 - ・ラジオ等で正確な情報を入手する
 - ・横浜市が提供する情報を入手する(横浜市防災情報Eメール)
- ③隣の人を助ける：72時間(3日間)以内の救出が生死を分けます
 - ・大地震発生時は消防車、救急車はすぐに来られない場合があります。そんな時、隣近所の協力は大きな力になります。阪神・淡路大震災では、近所の人々が協力して、パールやのこぎり、車のジャッキなど身近にあるものを使い閉じ込められた多くの人々を助け出しました。
 - ・救出方法：周りの状況を確認→障害物を取り除く→救出、搬送する
- ④家に帰れないとき
 - ・事前の対策…当日の混乱を避けるため職場に泊まる準備をしておく
 - 職場に帰宅グッズを用意する
 - 歩いて帰るルートを確認しておく、歩く訓練をしておく
- ⑤自宅建物が火災や倒壊の危険があるときは、避難場所へ避難する
 - ・避難時はヘルメット等で頭を守り、長袖長ズボン、厚底靴、軍手を着用する
 - ・リュックなどで両手をあげ、非常持ち出し品を携行する
 - ・ブレーカーを下げ、ガスの元栓を閉める
 - ・近くに高齢者や障がい者、乳幼児がいる場合はみんなで協力して避難する

3

あるといいモノ トイレパック(携帯トイレ)のご準備を！

断水時でもトイレが使えるよう、凝固剤と袋がセットになった携帯トイレの用意があると便利です。ホームセンターなどで購入できます

※横浜市消防局平成23年8月発行「減災行動のススメ」より抜粋



みなとみらいに
体験型食育施設

カップヌードルミュージアムが誕生！

正式名称
「安藤百福発明記念館」

インスタントラーメンにまつわるさまざまな展示や体験工房などを通じて、発明・発見の大切さやベンチャーマインドについて楽しみながら学べる体験型食育施設です。

<施設概要>

- 【開館時間】10時～18時(入館は17時まで)
- 【休館日】火曜日(祝日の場合は翌日が休館日)、年末年始
- 【入館料】大人500円 高校生以下入館無料
- 【住所】横浜市中区新港2-3-4(ワールドポーターズの海側)
- 【電話】045-345-0918(10時～18時)

<主な施設内容>

チキンラーメンファクトリー

世界初のインスタントラーメン「チキンラーメン」を手作りできる体験工房。小麦粉をこね、のばし、蒸したあとに味付けをし、「瞬間油熱乾燥法」で乾燥するまでの工程を楽しみながら体験することができます。(要予約小学生以上)【利用料金】小学生300円、中学生以上500円

マイカップヌードルファクトリー

「カップヌードル」の製造工程がわかる体験工房。自分でデザインしたカップにお好きなスープと具材をトッピングして、世界で一つだけの「カップヌードル」を作ることができます。味の組み合わせは全部で5460通り！(予約不要)【利用料金】1食300円
その他、「めん」の気分を味わえるカップヌードルパークや世界中の「めん」を味わえるNOODLE BAZAARも楽しめます。



事務所移転のお知らせ

古川なおき政務調査事務所は中希望が丘252-50から中希望が丘199-1へ移転しました(斜め前です)。電話番号、FAX番号は変更ありません。お近くにおこしのさいはぜひお寄りください！

みなさまのご意見をお待ちしています！

古川なおき政務調査事務所

〒241-0825 横浜市旭区中希望が丘199-1
TEL045-391-4000 / FAX045-366-9700
E-mail naoki@fukurukawa2002.com

